

令和6年度 第2回 清瀬市環境審議会 議事要旨

日程：令和7年2月21日（金）

時間：午後2時から午後3時30分

場所：しあわせ未来センター 1階 セミナールーム

出席委員：服部委員、松本委員、芦澤委員、村野委員

織田委員、田口委員、長田委員、今田委員

欠席委員：渡邊委員、船木委員

事務局：門田市民環境部長、綾環境課長

野中環境政策係長、河西環境政策係主任

《会議次第》

1 開 会

2 議 題

- (1) 騒音の環境基準の地域類型の変更について
- (2) 第三次清瀬市環境基本計画（清瀬市気候変動適応計画内包）について
- (3) その他

3 閉 会

《配布資料》

- (1) 【資料1】清瀬市内の騒音（AA）地域類型の変更について
- (2) 【資料2】第3次清瀬市環境基本計画 計画策定の考え方及び骨子案について
- (3) 【参考資料1】AA地域図
- (4) 【参考資料2】騒音調査結果概要
- (5) 【参考資料3】騒音調査地点図
- (6) 【参考資料4】他地域との比較用周辺図（航空写真）
- (7) 【参考資料5】アンケート調査報告書
- (8) 【参考資料6】第1回きよせ環境みらいワークショップ結果報告書

《議事内容》

1 開会

会長より開会の宣言

2 議題

(1) 騒音の環境基準の地域類型の変更について

- ・【資料1】清瀬市内の騒音（AA）地域類型の変更について
- ・【参考資料1】から【参考資料4】

～事務局より説明～

～意見及び質疑応答～

【委員】

事業活動や生活の制限とは具体的にはどういったことを想定しているか。

【事務局】

具体的な事例ではないが、AA 地域類型のままでは通常的生活や事業活動に伴う音が基準値にかかる可能性が高く、住民生活や事業活動を阻害すると考え、通常の第一種低層住居専用地域にあたるA地域類型へと変更をした。

【委員】

近隣にはAAはないのか。

A地域類型になった地域で事業活動等により大きな音が出るようであれば、指導等があるのか。

【事務局】

近隣ではAA 地域類型はない。

該当地域で定期的に大きい音が出ているなど、測定値として基準値を超え、また住民等より苦情が出ている状況であれば指導の対象となる。

【委員】

環境基準の類型指定の考え方については、国から平成30年に通達が出ている。それによると、類型指定についてはA・B・Cが基本となっており、AA地域は、単に病院等が集まっている地域ではなく、地域の土地利用の実態からみて、静穏が必要な療養施設や社会福祉施設が設置されている地域の事である、とされている。

現状、清瀬市の当該地域は、周辺環境や設置施設においてAA地域としておくべき条件は満たしていないと判断できるため、A類型地域にすることは全く問題ないと思う。

～審議会として異議なし～

(2) 第三次清瀬市環境基本計画（清瀬市気候変動適応計画内包）について

- ・【資料2】第3次清瀬市環境基本計画 計画策定の考え方及び骨子案について
- ・【参考資料5】及び【参考資料6】

～事務局より説明～

～意見及び質疑応答～

【委員】

国の第6次環境基本計画からみると、国民の幸せや経済成長と環境保全を両立させることが記載されている。

清瀬市として、環境基本計画を策定する上で、どのような未来を目指していくか、何かイメージしていることはあるか。

【事務局】

未来像については、現時点では議論をしている最中であり、イメージ等をお示しすることはできませんが、次回の審議会にて提案していく予定である。

【委員】

未来像として清瀬市の中で環境を良くすることで生活や事業が良くなること、環境の保全と経済性が別物ではないということ、環境を保全することで生活が制約を受けるものではないこと等を含んだ未来像を設定しなければならないと思う。

今までのような、規制をベースとした環境政策でなく、プラスの価値を持つ政策であることが必要。

アンケート結果では、地球温暖化に関する気温上昇や異常気象の心配があるが、これは次期環境基本計画が内包する適応計画の内容であり、適応対策をしっかりと実施することで、温暖化が軽減でき、また農業生産や市民の健康にも結びつく、そういった流れを作りたい。

地球温暖化は現時点である程度進んでしまっていると思うが、適応対策に力を入れるべき。

例として、農業に太陽光発電を活用していき、その電気を使って設備を動かし農産物の生産を維持し、それで収穫した農産物を市内で消費するなど、好循環を作って清瀬の生産を向上させ、環境と経済の両立をさせる。

こういった未来像を考えて計画を作りたい。

【委員】

温暖化の話は、日本や地球レベルでも考えていく問題であると思う。

清瀬は自然環境に恵まれていることもあり、他の地域に影響を与えられるようなことも考え、取り組んでいくべきと思う。

【会長】

啓発などは市単独でも行う事ができるが、それ以外は清瀬市単独では難しいところがある。

そのため、全体で考えていくことが重要であるという視点が重要であるということについては、同意見。

【委員】

ごみ袋の有料化は環境には良いことであり、市民にも定着してきたと思う。
清瀬らしい計画を策定し、定着する特徴のある内容になればと思う。

【委員】

環境を良くしたら経済的にもプラスになった、経費等も削減した、といったことを同時に考えられたらと思う。
燃えるごみを再資源化し、柳泉園での焼却を減らしていると思うが、これをもっと進めると、焼却コストが減るといったことができるのではないかな。
市民の負担や市の財政コストも減らす視点で、計画を策定するべきだと思う。

【会長】

節約や削減をした結果どうなるのかといったことをもっと市民に分かりやすく伝えられたらと思う。
計画の記載内容が立派でも実現できなければ意味が無いから、何がどれくらい達成できているのか、見える化されていることが、今をよりよくするためには重要だと思う。

【委員】

資料 2、12 ページの図の中で説明があったと思うが、再度、KGI や KPI についてどういうものか説明してもらいたい。

【事務局】

KGI は重要目標達成指数で、それぞれの環境の分野の将来の姿が実現された際の数値指数を設定した達成度を示し、KPI は KGI を達成するための重要業績達成指数としており分野ごとの数値目標を設定した達成度を示す。

【委員】

現計画は達成されたか否かだけの評価であるが、次期計画では数値化・定量化するという認識で問題ないかな。
そういうものだとすると、指標化はかなり難しいと感じる。
例えば簡単に分野ごとの達成数で数値化するなど、客観的に分かるようにする必要があるのではないかな。

【委員】

自分たちの身近なところで取り組みを進めると、温暖化の対策については、一般の家庭で行うと難しい取り組みもある。
分野の内、気候変動対策と公害や都市づくりに関する取り組みは市民レベルでは難しいことが多いと思う。
ごみ、自然、人づくり教育に関する分野は、清瀬市にとっては身近な問題であり、ここをより具体化出来たらと思う。
人づくり教育については、学校においては時間が無く難しいと思うが、工夫した取り組みができたらと思う。

【会長】

学校教育では、やったかどうかだけではなく、やった結果どうなったか、アンケート調査等を行い、やった結果の評価も合わせて考えて行くべきだと思う。

【委員】

環境の取り組みについて、もっと市民が触れる機会を増やしていくべきだと思う。

市民と目線を揃え、更には市職員全体も目線を揃えるべき。

【委員】

リサイクルのことについて教育や広報などで、より分かりやすく伝えていければと思う。

化学物質の汚染について、特に昨今では PFAS について多々言われていると思うが、これに対して市は何か対策など考えているか。

【事務局】

PFAS は現時点では清瀬市で基準値を超えた箇所は出ていない。

給水栓の飲み水については、都の水道局が浄水所や給水所等で数値が上がったら水源井戸からの取水を止める等の対応を行っている。

また、地下水においては都の環境局が調査を強化しておりモニタリングを進めている。

【委員】

現状では PFAS に対する防止策は無いのか。

【事務局】

現在、PFAS については国内での製造や国内へ持ち込みはできないこととなっており、今後国内の総量が増えることは無いと言われている。

現存するものを封じ、摂取しないことに主眼を置いた対策となっている。

【委員】

人工芝が PFAS に関係していると言われている。

そういうものへの対策は考えられているのか。

【事務局】

人工芝が PFAS に関係しているといった正式な通知や発表はなく、人工芝への対策は行っていない。

PFAS については、未だ不明なことが多く、また今回のような広域的な検出事案に関する対策マニュアルもできていない状況である。

都は国へ対策マニュアルの作成など要望しており、各市も都と共同で取り組んでいる。

【委員】

市民が心配しないよう対応をお願いしたい。

【事務局】

情報が入れば、その都度ホームページ等で情報発信をおこなう。

【委員】

循環資源分野で、ごみ袋の有料化は市民にある程度の理解をいただけたと思う。現在、戸別収集を始めているがカラス問題が多くあることから、こういったことにもきめ細かい周知をするような形でお願いしたい。

カラス対策の網を安価で提供する等、細かい対策や情報提供もできないか。

【事務局】

カラス対策は説明会でも多く意見や心配の声が出た問題があり、市ではダスト BOX やS字フックでの対策を勧めるよう市報やホームページ等で周知している。集合住宅には、無償でカラスネットの貸出をしている。

【会長】

今回の議題である、2050年の未来像を含めた計画の方針について、他に意見はないか。

【委員】

第1回のワークショップやアンケート結果を見ると緑に関する意見が多い。緑を守っていく形の内容を入れて欲しいと思う。

【委員】

清瀬は緑等の自然が多いことで都心より温度が低いなど、住みやすい環境を保持している。

グローバルな話や、多くの分野を入れるのではなく、緑や川など自然を残し安心して住みやすい街を目指すことを未来像として入れることを考慮して欲しい。

【委員】

環境素保全と同時に市民生活も向上させること、環境も生活等も良くするための仕組みを考えて行きたい。

国は環境保全と合わせて経済成長を推進していくことを考えていると思う。

環境政策を商業や農業を活発にしていくこともベースに考えてほしい。

【会長】

環境に優しい事業者へ金融融資の優遇や表彰等の取り組みもあると聞くが、環境に良いことをするとインセンティブが発生するといった仕組みが必要なのかと思う。

～審議会として骨子案に対する反対無し～

(3) その他

～前回審議会であった疑義への回答～

【事務局】

小学校設置の太陽光発電設備で発電した電気を売電できるのか、といったことについて、売電自体は可能かと考えるが、発電容量が現設備では小さく全て消費されてしまう。

また、夏休みにおいても、学校開放の体育館や職員室等夏期でも活用する教室での電気の使用で消費されてしまう。

～今後の会議日程等について～

【事務局】

議題(2)の最後で、今後のスケジュールを説明したが、次回は未来像や基本的施策についても提示するので、その内容について委員の皆様で議論をしていただきたい。

開催時期は5月か6月を想定している。

3 閉会

会長より閉会の宣言

以上